



言語教育(英語、日本語、手話)と音声情報弱者への情報保障

Keywords: 英語教育、日本語教育、手話、教材開発、語彙、(情報保障)

● 研究概要

英語、日本語、手話をターゲットランゲージとした言語教育に関する研究を中心に進めています。特に、語彙や教材開発に関心があります。また、災害時の日本語の音声情報弱者(主として、在留外国人や聴覚障がい者)に関するリサーチも行っています。



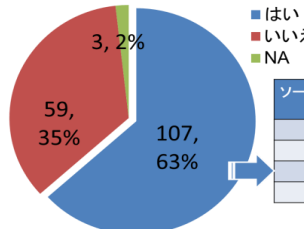
所属
 教養・基礎教育部門
 准教授
 氏名 長谷川 由美
 Hasegawa Yumi

● 研究テーマ

・災害時の情報保障

(コミュニティ放送とソーシャルメディアの活用)

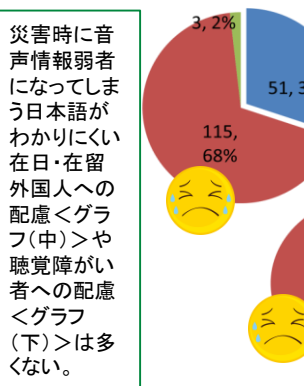
全国のコミュニティ放送局(238局:有効回答169)を対象に、通常時と災害時のソーシャルメディアの利用状況や災害時の音声情報弱者(在日・在留外国人、難聴を含む聴覚障がい者)への情報提供方法の工夫に関するアンケートを実施した。コミュニティ放送局の多くが、Facebookなどのソーシャルメディアで文字や画像による情報提供を行っており、通常時には146局、災害時には107局がソーシャルメディアで情報発信をすとしているが、災害時にソーシャルメディアを利用するとしている局であっても、少しの工夫で、音声日本語の理解が難しい在日・在留外国人や聴覚障がい者を対象にした情報提供の手助けになると認識している局は、少ないことが明らかになった。(論文1、競争的基金2)



災害時にソーシャルメディアを使う予定のラジオ局は全体の63%<グラフ(上)>

ソーシャルメディアの種類	局数
Facebook	81
Twitter	79
LINE	14
その他	14

災害時にソーシャルメディアを活用できないだろうか？



災害時に音声情報弱者になってしまいう日本語がわかりにくい 在日・在留外国人への配慮<グラフ(中)>や聴覚障がい者への配慮<グラフ(下)>は多くない。

在日外国人に対する工夫	局数
外国語の使用(音声)	31
外国語の使用(アプリ<音声・文字>)	11
外国語の使用(中)	1
外国語の使用(ソーシャルメディア)	1
やさしい日本語の使用(音声)	2
やさしい日本語の使用(不明)	4
その他	1
NA	1

聴覚障がい者に対する工夫	局数
ソーシャルメディア	18
アプリ	10
HP/ウェブ	5
ライト音源防災ラジオ	5
ケーブル局との連携	2
隣人への協力要請	2
パトロール	1
警備	1
ディフューザー	1
ライブカメラ	1
文字表示防災無線/ラジオ	1

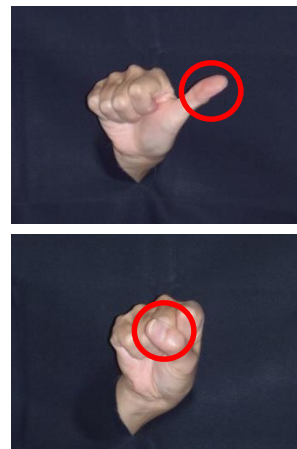
・手話(指文字)のゆらぎ

親指がどうなっていれば指文字「あ」(写真・上)で、どうなっていれば指文字「さ」(写真・下)なのか。「あ」と「さ」の境界はどこにあるのか。

通常、健聴者が手話を始めるとき、初習段階で指文字(手で表す50音)を学ぶ。しかし、手形状には個人差があり、形状が似た指文字では、区別がつきにくいものもある。

例えば、親指の位置だけが異なる指文字「あ」と「さ」は、他の4本の指との位置関係がどうであれば、「あ」もしくは「さ」という別々の指文字と認識されるのだろうか。指文字を示している手の特にどのあたりに注目していれば、指文字の読み間違いが少なくなり、より正しい読み取りにつながるのだろうか。

各指文字のゆらぎを調査することにより、手話初心者にわかりやすいインストラクションの在り方を探求する。(競争的基金3)



写真(上)は指文字の「あ」、写真(下)は指文字の「さ」。

「あ」と認識される親指の位置と、「さ」と認識される親指の位置の境目はどこだろうか？

● 論文・特許等

【論文】

- 通常時・災害時におけるコミュニティ放送局のソーシャルメディア利用の現状 —在日・在留外国人と聴覚障がい者に伝わる災害情報を目指して—、長谷川由美、宮本淳子、情報メディア研究(19)1、情報メディア学会、pp.19-28、2021年4月
- 『わたしたちの手話 新しい手話』にみられる指文字結合手話、長谷川由美、近畿大学生物理工学部紀要(42)、近畿大学生物理工学部、pp.53-67、2018年10月

【競争的基金】

- 手話「指さし」の文法機能の解明と文法教材実践モデルの考案、独立行政法人日本学術振興会: 科学研究費助成基事業(基盤C)、研究期間: 2020年4月 - 2023年3月 代表者: 長谷川由美(共同研究者: 本田久平、田中省作)
- ラジオと地域で促す早期避難への試み-「いつも」を「もしも」に活かすために-、公益信託高橋信三記念放送文化振興基金 2020年度助成金、研究期間: 2020年7月 - 2021年5月、代表者: 長谷川由美(共同研究者: 向井景子、今西武)
- パターン認識技術を併用した指文字(手話)のゆらぎの解明、独立行政法人日本学術振興会: 科学研究費助成基事業(基盤C)、研究期間: 2017年 - 2019年、代表者: 長谷川由美(共同研究者: 本田久平、田中省作)